



ゆずっこ

福島市立御山小学校
学校だより NO. 7
令和6年8月28日(水)
発行者 校長 高澤 里美

2学期が始まる朝の子どもたちは、実にいろいろです。いつもより、ずっと早い時間に登校して友達と笑顔でおしゃべりしている子、「見て、見て」とつくってきた作品を見せてくれる子、「キャンプをしたよ」「道の駅で、〇〇先生と会ったよ」と夏休みの思い出を教えてくれる子、「ずっと、風邪が治らなくて大変だったんだ」と苦笑いの子、多くの子どもが、校門に立つ私の前を笑顔で通り過ぎていきます。でも、その中にほんのわずかですが、うつむき加減で足早に昇降口へと向かう子、重い足取りの子もいます。きっと、何か心に抱えているのでしょう。それでも、体調不良や家の事情で休んだ子以外、ほとんど全員が登校してくれました。

1学期終業式で約束をした「自分の命を大切にして夏休みを過ごす」ことを守ってくれた子どもたちと、それを支えてくださったおうちの方に感謝です。

第2学期始業式は、夏休み明けの子どもの体調等に配慮して、御山小学校自慢のテレビ放送で行いました。子どもたちに、伝えたことの一部を掲載します。

自分を信じて

(前略) 今年、オリンピック競技をたくさん見ました。体操選手に橋本大輝という選手がいます。前回の東京オリンピックで金メダルを二つもとった選手です。この橋本選手が、チームで競う団体戦の演技中、鞍馬から落ちてしまいました。「団体での金メダルはもう取れない…」と思ったその時、「あきらめるな」「絶対あきらめるな」と選手が互いに声を掛け合い、肩を叩いて励まし合っている様子がテレビに映し出されました。こんな状況でも「あきらめない」と言葉にできる「これまでの努力と仲間を信じる心」に感動しました。(中略) あきらめることなく全力を尽くした結果、日本チームは金メダルを手にする事ができたのです。

オリンピック選手と同じように鉄棒をしたり、同じタイムで泳いだりすることは今のみなさんにとってはとっても難しいことでしょう。でも、オリンピック選手が持っている「自分を信じる心」「仲間を大切に作る心」をもつことは、だれにでもできます。

「もうダメだ」「どうせできない」そんなときに、思い出してください。「きっとできる」と自分を信じる心を。自分を信じて、全力を尽くしても、思いどおりにならないときもあります。けれど、あきらめかけてからのひと踏ん張りは、次の成功の力になるのです。結果がついてこなかったとしても、そのがんばりは決して無駄にはならないのです。

さあ、2学期が始まりました。

1学期の最後に3人のお友達が転校していましたが、今日から新しいお友達が4年2組に加わりました。御山小学校の2学期は407名でのスタートです。

いろいろなところで「自分を信じてがんばる姿」を見せてほしいです。今から、とっても楽しみです。



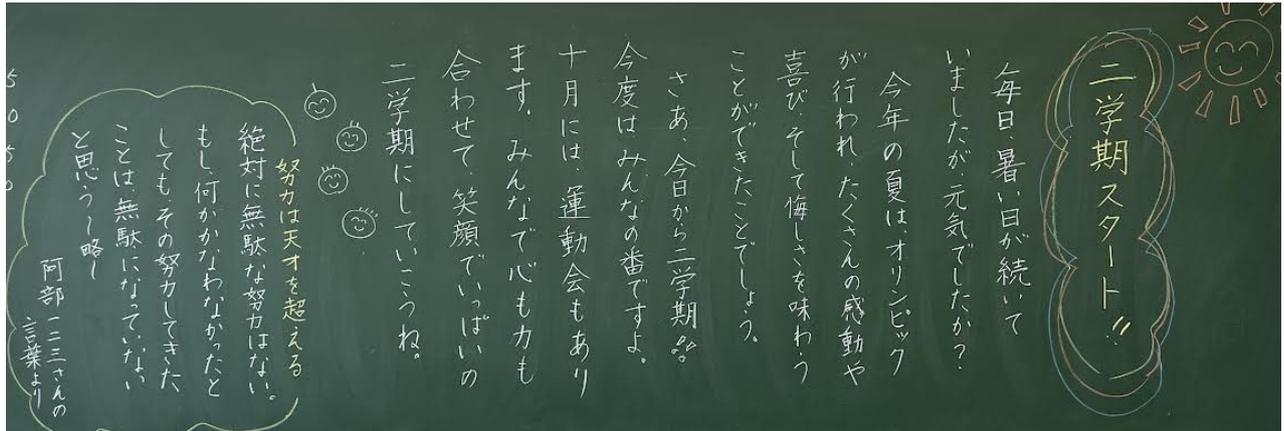
実は…同じ思いが

始業式前日、校舎を巡回していると、ある教室の黒板にこんな言葉を見つけました。

「努力は天才を超える」

絶対に無駄な努力はない。もし、何かかなわなかったとしても、その努力してきたことは、無駄になっていないと思う～略～

パリオリンピックの男子柔道66キロ級で金メダルをとった阿部一二三さんが語った言葉です。私と同じ思いが黒板に記されていました。



私は、子どもたちに「自分で自分の限界を作らないでほしい」と願っています。でも、自分自身を振り返ると、何か言い訳を並べ、勝手にだれかの限界を決めてしまっているときがあり、ハッとさせられます。「子どもの可能性は無限大」。努力次第で、子どもはオリンピック出場を果たす可能性をもっています。でも、私がこれからどんなに努力をしようとオリンピックに出場するのは不可能です。それでも、もし私が本気でオリンピックに出場するつもりで努力したら…出場の可能性はゼロかもしれないけど、その努力のおかげで、健康寿命が延びるかもしれないし、励まし合える仲間を得るかもしれません。子どもの可能性をしっかりと見つめて毎日を過ごしていきたい、そう思っています。

8月22日（木）、子どもが帰った後の2学期1回目の職員会議で、私から教職員に「子どもの可能性を信じて一人一人と向き合うことを大切にしてほしい、そして、『自分を信じる』こと、『努力は無駄にはならない』ことを子どもたちにしっかり伝えてほしい」という話をしました。

子どもはいろいろな壁を越えながら大きくなっていきます。どうか、「あなたの可能性は無限大なんだよ」というあたたかな思いをもって支えていただきますようお願いします。

中学生ドリームアップ8/26～8/30

中学生9名が5日間の職場体験に来ています。どんなことを学んでいってくれるのでしょうか。

